

科目名	コミュニケーション技術Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30	担当者	案納賀世子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	訪問看護ステーションにて保健師として勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科2年						
授業概要	介護現場の中核として存在する介護福祉士の専門性として、1年次前期の「コミュニケーション技術Ⅰ」での基本的なコミュニケーション技術を生かし、様々な障害を持つ人に対して、障害の特性を理解し、コミュニケーションの方法を習得する。また障害の特性に応じた様々なコミュニケーションのあり方を考察することで、コミュニケーション技術が向上できる。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		
					実技:		
						※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					障害に応じたコミュニケーション技術について学び、手話や点字の基礎知識をつけることができる	
		○				基本のコミュニケーション技術を活用し、多職種との連携・協力の重要性を説明することができる。	
		○				チームコミュニケーションのなかで、記録・「報・連・相」を身につけることができる	
		○				障害に応じた利用者の様子から、チームでのコミュニケーション技術を活用することができる。	
			○			他者からの助言が無くても、利用者のもつ身体的、心理的、社会的側面へ配慮することができる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規「コミュニケーション技術」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1年次のコミュニケーション技術の復習とオリエンテーション					
	2	家族とのコミュニケーション技術				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	家族とのコミュニケーション技術				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	集団におけるコミュニケーション技術				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	チームで行うコミュニケーション技法①:記録				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	チームで行うコミュニケーション技法②:報告・連絡・相談・会議				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	チームで行うコミュニケーション技法③:事例検討・情報共有				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	視覚障がいの基礎知識と点字のコミュニケーション技術(自己紹介)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	視覚障がいの基礎知識と点字のコミュニケーション技術(挨拶)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	視覚障がいの基礎知識と点字のコミュニケーション技術(読み書き①)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	視覚障がいの基礎知識と点字のコミュニケーション技術(読み書き②)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	聴覚障がいの基礎知識と手話でのコミュニケーション技術(自己紹介)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	聴覚障がいの基礎知識と手話でのコミュニケーション技術(挨拶)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	聴覚障がいの基礎知識と手話でのコミュニケーション技術(時間・数字の理解)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	聴覚障がいの基礎知識と手話でのコミュニケーション技術(簡単な日常会話等)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				90%
	小テスト	◎	◎				5%
	授業態度・忘れ物・居眠り等				◎		5%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合評価対象外とする。						

科目名	生活と住環境						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	20時間	担当者	田上 美里		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて介護職にて勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 ・ 2年生						
授業概要	<p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるように根拠に基づいた介護実践ができるように知識・技術を学習する。 その為に住まいの役割と機能、加齢と生活空間、快適な室内空間のあり方などを学ぶ。 福祉用具について正しい知識を学び適切に使用できるように助言できるようになる。</p>						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				住まいの役割について理解し、快適な居住環境について知る。	
	○					高齢者・障害者に居住環境の特性について説明できる。	
	○					災害時に対する備えの重要性について説明できる。	
	○					介護サービスの提供においてなぜ快適な居住環境が必要なのか説明できる。	
○					住環境の整備における多職種との連携の必要性を説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座 4 -介護の基本Ⅱ						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 住まいの役割と機能				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	2	生活空間				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	3	快適な室内環境				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	4	安全に暮らすための生活環境				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	5	高齢者の住まい				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	6	障害者の住まい				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	7	居住環境の整備における多職種との連携				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	8	福祉用具の重要性				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	9	福祉用具の種類				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	10	適切な福祉用具を選ぶために視点				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)宿題、レポートを数回実施する。(2)定期試験の(筆記)を実施する。(3)グループワーク実施時の参加状況以上を下記の割合で評価する 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	◎				5%
	宿題・レポート	○	◎		◎		5%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	生活支援技術・応用Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	田上／案納／吉水／豆田		
実施年度	2020年度	実施時期	通年	担当者実務経験	CW(老健)／NS(病院)／CW(特養)／CW(病院)		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 2年						
授業概要	各疾患の医学的理解・心理的理解を基とし、障害の状態に応じた介護支援の展開を行えるようになる。 また、利用者ニーズに対応した具体的な支援方法についても学ぶ。						
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				各疾患・障害の概要と特徴的な症状について説明できる。	
	○	○				各疾患・障害の特有の生活の困難について説明できる。	
	○	○	○			各疾患・障害に応じた生活支援技術の展開方法を選択し、生活支援技術基本の内容を応用できる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規出版 最新介護福祉士養成講座-8 生活支援技術Ⅲ						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1～3	肢体不自由に応じた介護(豆田)			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	4～7	内部障害(心臓機能障害のある人)に応じた介護(案納)			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	8～11	内部障害(呼吸器機能障害ある人)に応じた介護(案納)			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	12～14	知的障がいに応じた介護(田上)			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	15～17	重症心身障害に応じた介護(田上)			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	18～20	筋萎縮疾患(ALSと筋ジストロフィー)に応じた介護(豆田)			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	21～22	パーキンソン病に応じた介護(豆田)			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	23～24	悪性関節リウマチに応じた介護(豆田)			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	25～27	災害時における生活支援(吉水)			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	28～30	家庭経営、家計の管理(吉水)			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	31～34	内部障害(腎臓機能障害のある人)に応じた介護(案納)			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	35～36	内部障害(肝臓機能障害ある人)に応じた介護(案納)			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	37	内部障害(HIV・免疫機能障害・肺がん・肺炎)に応じた介護(案納)			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
38～40	発達障害に応じた介護(吉水)			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと			
41～45	精神障害に応じた介護(吉水)			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと			
評価方法	(1) 定期試験(筆記)を実施する。授業内で行った演習についても定期試験にて問題として出題する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○	○			100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護過程各論Ⅱ(前期/通年)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	吉水 美穂		
実施年度	2020年度	実施時期	前期/通年	担当者実務経験	特別養護老人ホームにて介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 2年						
授業概要	1年次の介護過程総論・介護過程各論Ⅰをふまえて、利用者のより生活に沿った介護過程の展開が出来るようになる。その際に、利用者の持つ生活背景や、地域の文化的特性・自然環境・時代背景等に配慮し介護過程の展開が行えるようになることを目標とする。実際に、事例や実習での経験を通して介護計画の立案や実施・評価を行い介護過程を展開する方法を身につけていく。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				介護過程の展開のうちアセスメントの方法について根拠を理解し事例に応用することができる	
		○				実習担当利用者に対してアセスメントを実践し、適切に記録することができる。	
	○	○				介護過程の展開のうちアセスメントから計画の立案までの一連の方法習得し実習に応用できる	
	○	○		○		担当利用者の介護計画について実習後根拠に基づき分析を行い、論文にまとめプレゼンを行う。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規介護福祉士養成講座9 介護過程 みらい アクティブラーニングで学ぶ介護過程ワークブック						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	情報収集の方法				実習ⅠBの担当利用者の情報	
	2	情報収集の視点					
	3	ICFの視点に基づいた情報収集について(状況シート)					
	4	介護過程の展開の方法について振り返り					
	5	アセスメントの方法について振り返り					
	6	事例検討① アセスメントの方法					
	7	個別援助計画とケアプランの違いについて(介護保険の振り返り)					
	8	介護計画の立案の方法(課題から長期目標の立案の視点)					
	9	介護計画の立案の方法(短期目標・具体的援助内容・方法)					
	10	事例検討② 個別援助計画の立案					
	11	事例検討② 個別援助計画の立案					
	12	評価、考察、再アセスメントについて振り返り					
	13	評価、考察、再アセスメントの視点・記入方法					
	14	実習に向けて介護過程の展開の進め方(スケジュール確認)					
	15	試験対策					
評価方法	前期は定期試験(筆記)を実施・後期は介護過程事例研究論文提出により評価する。成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。通年評価は、前期・後期の評価を総合的に評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(前期)	◎	◎				100%
	発表・作品(後期)	◎	◎		○		100%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護総合演習Ⅱ(前期／通年)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	案納賀世子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期／通年	担当者実務経験	訪問看護ステーションで保健師勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー2年						
授業概要	①これまで学んだ知識や技術を統合して、実際場面に適用できる応用力・判断力を身につける。 ②実習後に十分な振り返りを行い、より効果的な実習を行えるようにする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					介護福祉士としての理念、職業倫理、総合的な対応能力が身についている。	
	○					介護過程の展開が実習の場面でできる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規「介護総合演習・介護実習」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	実習施設発表、定期券申請					
	2	調べ学習、自己紹介表記入					
	3	実習内容、目標設定					
	4	実習の決まりごと確認					
	5	事前挨拶・実習前審査					
	6	事前挨拶・実習前審査					
	7	プロセスレコード記入方法					
	8	カンファレンス記入方法					
	9	帰校日(実習2週目)					
	10	帰校日(実習3週目)					
	11	帰校日(実習4週目)					
	12	実習日誌清書、お礼状、学内申し送り簿の記入					
	13	実習日誌清書、お礼状、学内申し送り簿の記入					
	14	報告会準備					
15	介護実習Ⅱ報告会						
評価方法	定期試験がないため授業、帰校日の出席、授業中の態度、意欲、努力、提出物(カンファレンスレポート、プロセスレコード、実習を終えて等)を評価対象とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	出席				○		50%
	提出物				○		50%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	医療的ケア(前期/通年)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	68時間	担当者	林田 朋子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期/通年	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科2年						
授業概要	介護福祉士は介護の中核を担う存在となり、複雑化・多様化・高度化していく介護ニーズに対応していく必要がある。 さらに業務として喀痰吸引と経管栄養が加わり、この授業では、医療職と連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得することを目的とする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	目標						
	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○					喀痰吸引や経管栄養の医行為の一部を業として行うことになった背景などを学び説明できる	
	○					医療的ケアを安全に実施するための基礎知識を学び医療職との連携の重要性を説明できる	
	○	○				喀痰吸引に関する基礎知識、実施手順とその留意点について学び実技に応用できる	
	○	○				経管栄養に関する基礎知識、実施手順とその留意点について学び実技に応用できる	
○	○	○	○			医療的ケアの実技ができる	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> 中央法規出版 介護福祉士養成講座15 医療的ケア 中央法規出版 見て覚える!介護福祉士国試ナビ 						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第1章 医療的ケア実施の基礎 第1節 医療的ケアとは			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	喀痰吸引等制度			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	第2節 安全な療養生活 救急蘇生①救急蘇生の必要性			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	救急蘇生②救急蘇生の方法 緊急時の対応			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	実技試験 救急蘇生法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	第3節 清潔保持と感染予防①感染とは 介護職の感染予防			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	清潔保持と感染予防②消毒と滅菌 手袋・マスク等の装着法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	健康状態の把握①身体精神の健康状態を知る			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	健康状態の把握② 演習バイタル測定			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	第2章 喀痰吸引(基礎的知識)第1節 喀痰吸引概論①呼吸のしくみ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	第1節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 ② 喀痰吸引とは			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 ③人工呼吸器と吸引			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 ④子どもの吸引			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 ⑤利用者家族の気持ち			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 ⑥急変事故発生時の対応			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	16	第2節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説①物品確認			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
17	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説②演習			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)グループ発表を実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。(4)実技試験を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				75%
	宿題・レポート	○	○		◎		5%
	グループワーク・発表	○	○		◎		5%
	演習	○	○		◎	△	5%
実技試験	◎	◎				10%	
履修上の注意	出席が23回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	障害の理解(前期／通年)						
科目名(英)	Understanding of Disorders						
単位数	4	時間数	60	担当者	田中優子		
実施年度	2020	実施時期	前期／通年	担当者実務経験	病院で看護師として勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科2年						
授業概要	障害の概念や障害者福祉の歴史を踏まえ、障害者支援の基礎となる関係法規や障害者福祉の理念を理解する。障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)の特性について理解し生活上の支援の在り方を学ぶ。障害者やその家族に対する関わり・支援の基礎を理解する。地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。						
授業形式	講義	○	演習:	△	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					障害者福祉に関する制度や専門用語、公的支援や疾患の概要を説明できる	
		○				障害者福祉制度と介護保険制度の共通点と相違点について説明できる	
		○				障害別の基礎的理解と特性に応じた支援について説明できる	
		○				障害者への社会資源や家族へのサポートのありかたについて説明できる	
				○		障害者の個別の事例について考え支援の在り方について意見を述べる事が出来る	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> 中央法規出版 介護福祉士養成講座14 - 障害の理解 中央法規出版 見て覚える! 介護福祉士国試ナビ2017 						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	障害の概念と障害者福祉の基本概念・・・ICFについて理解する				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	2	障害者福祉の基本理念・・・ノーマライゼーションの思想				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	3	障害者福祉に関連する制度・・・歴史・サービス・法律の概要				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	4	障害者福祉と介護保険制度の違いや両制度の併用のしくみについて				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	5	まとめと確認テスト				配布プリントとミニテストを復習すること(1時間)	
	6	障害のある人の心理・・・人間の欲求や適応機制について学ぶ				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	7	肢体不自由の特性を理解し支援のポイントを理解する				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	8	視覚障害の特性を理解し支援のポイントを理解する				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	9	聴覚・言語障害の特性を理解し支援のポイントを理解する				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	10	内部障害の特性を理解し支援のポイントを理解する ①				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	11	内部障害の特性を理解し支援のポイントを理解する ②				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	12	内部障害の特性を理解し支援のポイントを理解する ③				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	13	内部障害の特性を理解し支援のポイントを理解する ④				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	14	重症心身障害の特性を理解し支援のポイントを理解する				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
15	まとめと確認テスト				配布プリントとミニテストを復習すること(1時間)		
評価方法	(1) 毎回ミニテストを行う。(2) 定期テスト(筆記)を実施する。 評価はA(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(59点以下)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎		○		80%
	小テスト	◎	◎		○		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	からだのしくみⅡ						
科目名(英)	Body structure and function						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	山下 和美		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	看護師として医療機関にて勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 2年						
授業概要	介護現場の中核として存在する介護福祉士の専門性のひとつに、利用者個々人の心身の状態に応じたケアを行うことが挙げられる。この授業では、個別ケアの中核をなす『介護過程(総論・各論)』において、身体構造・心身機能をアセスメントするために必要な医学的知識を学ぶ。また、『生活支援技術(基本・応用)』に関連するところやからだのしくみを理解して、全人的なケアを提供する際に必要な知識の習得を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	目標						
	○					生活支援技術の根拠となる人体の構造・機能と、関連した疾患や障害の概要を説明することができる。	
	○					疾患・障害に対応するために、医療職との連携・協力の重要性を説明することができる。	
	○					介護サービスの提供における安全への留意点を説明することができる。	
	○					利用者の様子から、からだの状態変化に気づく観察の視点へと応用することができる。	
			○			利用者のもつ身体的、心理的、社会的側面について配慮し、ケアの際に実践することができる。	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 最新介護福祉士養成講座11 - ころとからだのしくみ ・中央法規出版 見て覚える！介護福祉士国試ナビ2019						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ ①入浴・清潔保持のしくみ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ ②心身の機能低下が及ぼす影			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ ③変化の気づきと対応			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	排泄に関連したところとからだのしくみ①排泄のしくみ			・前単元の授業内容の復習をしておく(確認テスト) ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	排泄に関連したところとからだのしくみ②心身の機能低下が及ぼす影響			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	排泄に関連したところとからだのしくみ③変化の気づきと対応			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	睡眠に関連したところとからだのしくみ①睡眠のしくみ			・前単元の授業内容の復習をしておく(確認テスト) ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	睡眠に関連したところとからだのしくみ②心身の機能低下が及ぼす影響			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	睡眠に関連したところとからだのしくみ③変化の気づきと対応			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ ①人生の最終段階に関する「死」のとらえ方とところの理			・前単元の授業内容の復習をしておく(確認テスト) ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ 特別講師「日本人と死生観Ⅰ」			外部講師による授業		
	12	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ 特別講師「日本人と死生観Ⅱ」			外部講師による授業		
	13	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ ②終末期から危篤状態、死後のからだの変			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ ③終末期における医療職との連携			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	後期授業内容の復習とまとめ			・前単元の授業内容の復習をしておく(確認テスト) ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
評価方法	全授業の終了後に定期試験(筆記)を実施する。 総合評価の際には以下の評価を加えて評価する。 (1)授業の中で確認テストを4回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)授業の中での討議・発表 上記の(1)(2)(3)については下記の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	確認テスト	◎	○				10%
	宿題・レポート	○	○		◎		5%
	討議・発表	○	○		◎		5%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	社会福祉概論Ⅱ								
科目名(英)									
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	山下朋子				
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	社会福祉士として スクールソーシャルワーカーで勤務				
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 2年次								
授業概要	社会福祉の原理や概念、思想、歴史、および社会福祉援助の対象、福祉ニーズの概念やその把握法を学び、そのうえで、社会福祉に関わる制度・政策の法制度、体系、行財政、民間部門の福祉事業・活動の現状、さらにはその方法と展開過程および組織と運営、従事者と資格、その動向と当面の展望を学ぶ。さらに、福祉政策の論点や福祉政策における政府、市場、国民の役割、およびその手法と政策決定過程、政策評価、福祉供給部門・過程、福祉利用過程からなる福祉政策の構成要素、また、教育・住宅・労働政策からなる関連政策を学ぶ。福祉専門職として、福祉政策や地域福祉を見据えた、広角的かつ実践的な視点を身につける。								
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標			
	○					福祉ニーズの概念について実践的な視点で学び、その把握方法について説明することができる。			
	○					社会資源について学び、その内容や種類について説明することができる。			
		○				現代の福祉政策の構成要素について学び、その供給過程、利用過程について説明することができる。			
				○		現代の福祉的課題について考え、自らの専門職としての考えを述べるることができる。			
テキスト・教材 参考図書	現代の社会福祉士養成シリーズ 第3版 現代社会と福祉 kumi出版								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	オリエンテーション、社会福祉概論Ⅰの振り返り				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	2	ニーズの概念について「需要とニーズの違い」				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	3	ニーズの把握方法について				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	4	社会資源の概要「社会福祉における資源の必要性、社会資源の内容」				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	5	社会資源の開発について				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	6	福祉政策と社会問題「貧困①」							
	7	福祉政策と社会問題「貧困②」							
	8	福祉政策と社会問題「児童①」							
	9	福祉政策と社会問題「児童②」							
	10	福祉政策と社会問題「障がい①」							
	11	福祉政策と社会問題「障がい②」							
	12	福祉政策の論点「福祉政策の課題」				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	13	福祉供給・利用				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	14	福祉政策と教育・住宅・労働政策の関係について				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
15	試験前オリエンテーション								
評価方法	(1)グループワークを実施する(参加態度) (2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	◎	○				80%		
	小テスト								
	宿題・レポート								
発表・作品		○		◎		20%			
履修上の注意	授業時にはレジメを配布します。 出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。								

科目名	ボランティア活動法						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	濱中美紀		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	社会福祉士として勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科2年						
授業概要	専門職として社会資源の活用や開発における知識やノウハウは必須あり、そのひとつであるボランティア・NPOについて学ぶ。またそれらの活用や開発についてコーディネートする側のノウハウを習得する。またこれから社会にでる学生に対して、地域貢献・社会貢献の視点の学習をとおして、社会問題の解決を担う社会性をもった専門職の育成を目指すことを授業の方針とします。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				ボランティアについて説明できる	
	○	○				NPOについて説明できる	
	○	○				ボランティアコーディネーターの役割を説明できる	
		○		○		地域社会におけるNPOボランティアの価値を説明できる	
	○		○		社会(地域)課題に関心を持ち、自身の考えを持つことができる		
テキスト・教材 参考図書	配布プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	ガイダンス・ボランティアとは			理解度確認		
	2	ボランティアの基礎Ⅰ(語源・歴史・原則について)			講義・ワーク		
	3	ボランティアの基礎Ⅱ(活動種類・分野、始める方法、心構え)			講義・ワーク		
	4	NPOの基礎(NPO、NPO法人、その他非営利組織)			講義・ワーク		
	5	ボランティアコーディネートの基礎Ⅰ			講義・ワーク		
	6	ボランティアコーディネートの基礎Ⅱ			講義・ワーク		
	7	身近な地域社会における問題・課題へのアプローチⅠ			講義・ワーク		
	8	身近な地域社会における問題・課題へのアプローチⅡ			講義・ワーク		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	1)レポート2)授業への参加状況、授業への参加態度 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	毎回ふり返り・感想文	○	○		◎		30%
	レポート	○	○		◎		20%
	出席				◎		50%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	社会福祉援助技術論Ⅱ(前期／通年)①						
科目名(英)							
単位数	8単位	時間数	120時間	担当者	棧原 弘司		
実施年度	2020年度	実施時期	前期／通年	担当者実務経験	独立型社会福祉士		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 2年						
授業概要	地域を基盤としたソーシャルワークの担い手としての実践力の高い社会福祉士養成を目指して、以下の5項目のねらいにそって講義を進めていく -①相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について理解させる、②相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解させる、③相談援助の過程とそれに係る知識と技術(介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者総合支援法によるサービス利用計画を含む)について理解させる、④相談援助における事例分析の意義・方法について理解させる、⑤相談援助の実際(権利擁護活動を含む)について理解させる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	◎					相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について説明できる。	
	○	◎		○		相談援助の対象と様々な実践モデルについて説明できる。	
	○	◎		○		相談援助の過程についての知識を説明できる。	
	○	◎		○		相談援助の過程における技術を使用することができる。	
	◎					相談援助における事例分析の意義・方法について説明することができる。	
	○	◎		○		相談援助活動の実際における留意点を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	「ソーシャルワークの理論と方法」Ⅰ・Ⅱ(株ミネルヴァ書房)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	「ソーシャルワークの理論と方法」とは何か -ソーシャルワーカーに求められる専門性			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	地域を基盤としたソーシャルワークの視点 -ソーシャルワークにおける「地域基盤」の意味内容			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	地域を基盤としたソーシャルワークの視点 -ソーシャルワークの基本視座(アウトリーチを含む)、機能、特質			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	相談援助過程(導入期) -意義・定義・目的と基本的視点			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	相談援助過程(導入期) -展開と課題・留意点			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	相談援助過程(アセスメント) -意義・定義・目的と基本的視点			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	相談援助過程(アセスメント) -情報収集の原則と内容			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	相談援助過程(アセスメント) -[演習] 情報収集ツールの理解と実際の利用			教科書の該当範囲、配布資料を事前に読んでおくこと		
	9	相談援助過程(アセスメント) -ニーズの定義とその捉え方			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	相談援助過程(支援計画の作成) -意義・定義・目的、枠組みと展開			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	相談援助過程(支援計画の実施(モニタリング)) -意義・定義・目的、枠組みと展開			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	相談援助過程(評価) -意義・定義・目的、方法・留意点			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	相談援助過程(終結) -意義・定義・目的、方法・留意点			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	相談援助におけるクライアント理解の方法 -治療モデル			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	相談援助におけるクライアント理解の方法 -生活モデル			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
評価方法	(1) 定期試験(前期・後期一筆記試験)を実施する。(2) 授業中に小テストを2回実施する。(3) 事例検討・発表を数回実施する。* 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	小テスト	◎	○				10%
	宿題提出・発表等	○	◎		○		20%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	社会福祉援助技術論Ⅱ(前期/通年)②						
科目名(英)							
単位数	8単位	時間数	120時間	担当者	椋原 弘司		
実施年度	2020年度	実施時期	前期/通年	担当者実務経験	独立型社会福祉士		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 2年						
授業概要	地域を基盤としたソーシャルワークの担い手としての実践力の高い社会福祉士養成を目指して、以下の5項目のねらいにそって講義を進めていく。①相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について理解させる、②相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解させる、③相談援助の過程とそれに係る知識と技術(介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者総合支援法によるサービス利用計画を含む)について理解させる、④相談援助における事例分析の意義・方法について理解させる、⑤相談援助の実際(権利擁護活動を含む)について理解させる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎					相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について説明できる。	
	○	◎		○		相談援助の対象と様々な実践モデルについて説明できる。	
	○	◎		○		相談援助の過程についての知識を説明できる。	
	○	◎		○		相談援助の過程における技術を使用することができる。	
	◎					相談援助における事例分析の意義・方法について説明することができる。	
○	◎		○		相談援助活動の実際における留意点を説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	「ソーシャルワークの理論と方法」Ⅰ・Ⅱ(株)ミネルヴァ書房						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	16	相談援助におけるクライアント理解の方法 - ストレングスマデル			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	17	相談援助アプローチの概要 - 心理社会的アプローチ・機能的アプローチの概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	18	相談援助アプローチの概要 - 問題解決アプローチ・危機介入アプローチ・行動変容アプローチの概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	19	相談援助アプローチの概要 - 課題中心アプローチ・エンパワメントアプローチ・エコロジカルアプローチの概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	20	相談援助アプローチの概要 - 構成主義アプローチ・解決志向アプローチ等の概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	21	相談援助アプローチの概要 - [演習] 相談援助アプローチの実際の理解と具体的な検討(複数アプローチ使用による検討)			教科書の該当範囲、配布資料を事前に読んでおくこと		
	22	相談援助の方法 - ケースマネジメント及びケアマネジメントの概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	23	相談援助の方法 - グループ支援の基本的性格、機能・構造			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	24	相談援助の方法 - グループ支援の実践原則、展開過程			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	25	相談援助の方法 - 家族支援の概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	26	相談援助の方法 - [演習] 家族支援の実際の理解と具体的(多問題家族)事例の検討			教科書の該当範囲、配布資料を事前に読んでおくこと		
	27	相談援助の方法 - ネットワーキングの概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	28	相談援助の方法 - 地域支援(コミュニティケア)の概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
29	相談援助の方法 - ソーシャルアクションの概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
30	前期(第1回～第29回)講義内容のまとめ及び当該範囲の復習小テスト			教科書の該当範囲の復習をしておくこと			
評価方法	(1) 定期試験(前期・後期一筆記試験)を実施する。(2) 授業中に小テストを2回実施する。(3) 事例検討・発表を7回実施する。* 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	小テスト	◎	○				10%
	宿題提出・発表等	○	◎		○		20%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護実習Ⅱ①						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	160時間	担当者	亀田 尚		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	障害者施設 支援員 7年間		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 2年生						
授業概要	個別ケアを行うために個々のリズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれをふまえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○			コミュニケーション技術を活用した利用者との関りが実践できる	
			○	○		利用者を中止としたチームケアや多職種協働の方法について学ぶことができる	
		○	○			学校で学んだ生活支援技術が応用されている場面を見学し根拠を理解できる。	
		○		○		多角的に利用者の情報収集を行い、利用者理解を深めることができる	
			○		計画的に実習の課題に取り組むことができる。		
テキスト・教材 参考図書	実習要項・記録						
授業計画	日数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	利用者の名前を覚え、1日の流れを知る				日々の実習記録の記載	
	2	職員や利用者との関りを通して、利用者の特徴を理解する				日々の実習記録の記載	
	3	利用者自ら積極的にコミュニケーションを図ることができる				日々の実習記録の記載	
	4	利用者の思いを引き出すためにコミュニケーションを実践する				日々の実習記録の記載	
	5	介護過程の展開実践のための受け持ち利用者の決定				日々の実習記録の記載・フェイスシートの完成	
	6	利用者の思いを引き出すためにコミュニケーションを実践する 生活支援技術実践のための見学を行う				日々の実習記録の記載	
	7	コミュニケーションから情報収集を行う。 指導者の指示のもと根拠に基づく生活支援技術の実践				日々の実習記録の記載	
	8	他専門職から得られる情報を収集する				日々の実習記録の記載	
	9	フェイスシート、状況シートを記入し指導者からの確認を受ける				日々の実習記録の記載	
	10	中間カンファレンスを開催し、自身の振り返りを行う				日々の実習記録の記載・状況シートの完成・カンファレンスレポートの作成	
	11	介護過程の実践(アセスメント) 1日の流れを理解し自ら進んで業務に参加する				日々の実習記録の記載	
	12	アセスメントの実践 根拠を理解した生活支援技術の実践				日々の実習記録の記載・アセスメント表の完成	
	13	アセスメントを指導者へ確認、指導を受ける 根拠を理解した生活支援技術の実践				日々の実習記録の記載	
	14	不足している情報の収集 レクリエーションなどの企画運営				日々の実習記録の記載	
15	不足している情報の収集 自ら考えて様々な業務を見学する				日々の実習記録の記載・個別援助計画の完成		
評価方法	実習要項にある評価表について下記の尺度で評価。A自分で行動できる B一度指導されれば、行動することができる Cその都度指導されれば行動できる D再三にわたり指導されても行動できない。問題行動危険行為がある。 施設評価80% 担当教員評価20% 総合評価がDの場合は再実習						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	実習態度		○	○	○		50
記録提出		○	○	○		50	
履修上の注意	実習は100%の出席のみ評価の対象となる。						

科目名	介護実習Ⅱ②						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	160時間	担当者	亀田 尚		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	障害者施設 支援員 7年間		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 2年生						
授業概要	個別ケアを行うために個々のリズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれをふまえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○			コミュニケーション技術を活用した利用者との関りが実践できる	
			○	○		利用者を中止としたチームケアや多職種協働の方法について学ぶことができる	
		○	○			学校で学んだ生活支援技術が応用されている場面を見学し根拠を理解できる。	
		○		○		多角的に利用者の情報収集を行い、利用者理解を深めることができる	
			○			計画的に実習の課題に取り組むことができる。	
テキスト・教材 参考図書	実習要項・記録						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	16	再アセスメントの必要性について考察 介護福祉職以外の職種について見学等を行い、多職種連携を 再アセスメントの必要性について考察				日々の実習記録の記載・実施、評価の記録	
	17	昨日の学びを通して、チームケアについて考察する				日々の実習記録の記載	
	18	これまでの学びを通して、施設の社会的役割を理解する 介護福祉士の倫理観や専門性について考察する				日々の実習記録の記載	
	19	アセスメント実践のまとめ すべての生活支援技術について習熟度の確認				日々の実習記録の記載・プロセスレコードの完成	
	20	最終カンファレンスを開催し、自身の振り返りを行う				日々の実習記録の記載・最終カンファレンスレポートの提出	
	21						
	22						
	23						
	24						
	25						
	26						
	27						
	28						
29							
30							
評価方法	実習要項にある評価表について下記の尺度で評価。A自分で行動できる B一度指導されれば、行動することができる Cその都度指導されれば行動できる D再三にわたり指導されても行動できない。問題行動危険行為がある。 施設評価80% 担当教員評価20% 総合評価がDの場合は再実習						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	実習態度		○	○	○		50
記録提出		○	○	○		50	
履修上の注意	実習は100%の出席のみ評価の対象となる。						

科目名	医療ソーシャルワーク論						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	藤 洋介		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	医療機関にてMSWとして勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 2年						
授業概要	○医療機能の分化が進み、また地域包括ケアシステムの推進により、MSWの支援も職場によって異なる現状がある。保険医療機関の違いを知り、それによって関わる時間や内容の異なるMSWの業務に差異が生じる事もあるが、どの機能の医療機関で働くにも必要なMSWとしての姿勢や業務指針基本的な業務について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					・MSWの専門的視点を身につけ、役割や倫理、姿勢を学び説明する事ができる	
		○				・医療機関の特徴や機能を理解し、医療機関内での相談や課題に対応し、援助を行う方法について学び、援助方法を考える事ができる	
		○				・保健医療機関における専門職の役割と実際、他職種との協働について理解し必要性を説明できる	
				○		・演習やグループワークの中で自身の考えを発言する事ができる	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	MSWについて知る、MSWの業務指針や業務の実際				自分なりのMSW像をイメージして参加する	
	2	対象者を理解する、利用者理解の方法、生活者を支援する視点を学ぶ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	保険医療機関の機能分化について				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	社会資源の活用について				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	MSW実践の基本について				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	地域包括ケアシステムについて				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	事例検討・演習				MSWとして大切だと考える姿勢や態度を考えて演習に参加する	
	8	まとめ MSWについて				授業を通してMSWに対するイメージ、知見がどのように変化したかを確認するので自身の考えをまとめておく	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	期末に定期試験(筆記)を実施。授業内で必要に応じてグループワークの実施及びレポート(個人・グループ)作成を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	授業態度・意欲等				◎		20%
	宿題・レポート	○	◎		○		10%
	演習時の意欲・態度等		○		◎		10%
履修上の注意							